

生まれたての電子図書館をよろしく

京都大学附属図書館長
万波 通彦

京都大学附属図書館に電子図書館システムを設置することができました。これまでにご努力下さった多くの方々に感謝いたします。

既に、各種類の研究用の雑誌、書籍、情報が電子化され、研究の場では電子化された資料が重要な役割を果たすようになってきました。特にアメリカ合衆国では、すでに多くの大学が電子図書館的機能を持ち、その大学に所属する人は電子化された雑誌、資料等を有効に利用しています。さらに、スタンフォード大学を始め6大学で電子図書館の新しいシステムの開発研究が行われています。一方、我が国では国立国会図書館に電子図書館プロジェクトがあり、奈良先端科学技術大学院大学には一次資料の電子化を中心とした電子図書館が設置され、さらに学術情報センターが全国的に大学図書館の電子化を支えています。しかし、外部に向けてのデジタル情報の発信を見る限り、世界的にかなり遅れているように思えます。

一般的図書について見れば、欧米では著作権を適用されない多数の書物がデジタル化され無料で提供されています。例えば、シェクスピアの全作品はデジタル化され、その総てにわたり本文内容を検索できます。検索可能なデジタル化資料は従来考えられなかったような使用法が可能です。これに対し、デジタル化された日本語の図書は数少なく、私の調べた限りでは精々500冊程度をインターネットで見ることができるのみです。その点、インターネット上の日本語図書の書棚は殆んど空っぽです。明

治時代に出版された書物は著作権法に規定されている著者没後50年を経過しているものが多く、デ



ジタル化することに法的な問題は殆どありません。書物のデジタル化には多大の労力と費用を要しますが、より多くの人々が電子図書館を利用しやすくするために必要不可欠です。

京都大学附属図書館では所蔵している貴重資料を画像としてインターネット上に公開してきました。今回の電子図書館の発足に当たり、新たに明治維新関連の維新特別資料の画像を公開しました。今後も所蔵貴重資料の画像を中心として公開していく予定です。この他、「机の上に京都大学」という企画の下に、京都大学百年史、京都大学を紹介する冊子、学位論文の要旨、各部署の紀要目次など京都大学関連の情報をデジタル化して公開する予定です。学内でのみ利用いただける資料としては、Elsevier社発行の雑誌のうち利用頻度の高い電子ジャーナルを33タイトルと Oxford English Dictionary、雑誌記事索引等のネットワーク対応のCD-ROMを購入し学内LANで利用できるようにしました。

電子技術の進歩は急速です。電子化した

資料数は増加し、より利用しやすくなることは間違いありません。附属図書館商議会としては、新たに電子図書館専門委員会を設け、電子図書館からの情報発信、学内向け情報配信の内容を検討しています。京都大学として外部に情報を発信するとともに、学内で行われる教育・研究活動に役立つ電

子図書館を構築したいと考えています。書物中心の従来型図書館と同様に、新たに生まれた電子図書館をご利用いただき、改善に向けてご助言下さるようお願いいたします。

(まんなみ みちひこ)

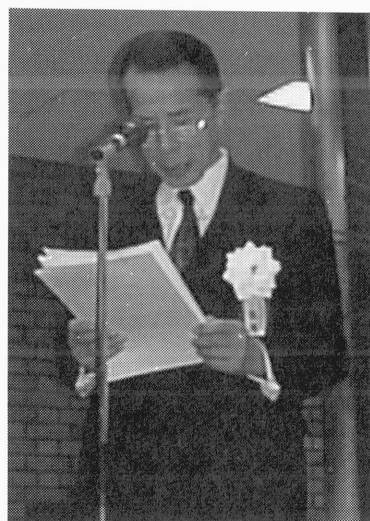
京都大学電子図書館のスタートにあたって

京都大学総長
長 尾 真

この度、京都大学附属図書館電子図書館システムが学内外の方々の利用に供されることになりましたことは大変意義のあることで、心よりお喜び申し上げます。

京都大学附属図書館の情報化の努力は1985年頃から始まり、目録・貸出し業務、さらに国立大学としては最初の学内学術情報システム網の整備が1990年1月に完成しKUINSと称して運用されるにしたがい、OPAC(On-line Public Access Catalogue)が開始されております。そして、1991年には宇治キャンパスとの間での電子ファイリングシステムによる新着雑誌目次提供サービスの実験が行われました。1994年には今回の電子図書館システムの原形である研究開発レベルでの電子図書館システム：アリアドネ(Ariadne)が附属図書館で試用されるようになり、附属図書館の「吉田松蔭とその同志」展の内容がアリアドネの上でも電子展示として公開されました。その後商用文献データベースの学内オンラインサービスはもちろんのこと、附属図書館の持つ種々の貴重書の電子化とアリアドネ上での公開が次々と行われるとともに、インターネットに附属図書館のホームページを設定

し、このホームページからこれらの多くの電子情報を見ることができるようにされました。このような着実な



努力は一つには文部省の「国立大学等優秀広報誌等表彰・奨励賞」を附属図書館のホームページが受賞するという荣誉につながりましたし、今回の電子図書館システムの予算化にもつながったわけであります。京都大学附属図書館のこの着実な努力に高い評価を与え、先進的な将来へ向けての京都大学附属図書館の努力に応え、しっかりした予算を付けて下さった文部省に対して心よりお礼を申し上げます。

京都大学附属図書館のシステムはいくつの特徴をもっております。その第一は図書館が従来行って来た業務部分の情報シス